

# 中学生と「働く」討論

神奈川県横須賀市が実施する地元の中学生を対象とした人材育成プログラム「マイタウンテイチャー派遣事業」に、東京電力藤沢支社(伏見保則支社長)が参加している。横須賀市に勤務地のある企業などが中学校へ社員を派遣。「働くこと」について、グループディスカッションを通じて、将来の夢や職業観の育成につなげていくのが狙いだ。昨年末から、同支社の若手社員7人が5つの中学校を訪問。協働の気持ちやコミュニケーション能力の重要性、夢を実現するために、今から取り組むことなどについて、中学生たちと語り合った。

横須賀市では08年度から「横須賀に働く大人はすべて先生」をコンセプトに、社会人と中学生との交流を行っている。東電や日産など、地元にある事業所がある大手企業や警察、消防、看護師などの公務員のほか、飲食店や花弁き店ダンス教師、美容師といった多様な職業人が参加。社会人側が中学校に出向き、自身の仕事の内容や働く意義、なぜその仕事を選んだかなどについてグループで語り合ったり、実際に仕事で使う道具を使って、どのような仕事を行うかを披露する「社会人による授業」を設けるなどの取り組みを行っている。

## 若手社員を派遣

東電も活動発足当初から、横須賀火力発電所の社員が参加。福島第一原子力発電所事故後は活動を休止していたが、横須

## 東電藤沢支社、横須賀市事業に協力

賀市からの呼び掛けもあり、同市を受け持ちエリミアとして藤沢支社が、12年12月から5つの中学校に「マイタウンテイチャー」として社員の派遣を始めた。

「これまで藤沢支社から派遣されたのは、配電保守・設計、技術サービス気料金の仕組みは」



母校の横須賀市立坂本中でグループディスカッションする久保田さん(左から3人目)

## 夢の実現 体験交え助言

基本的な質問に対し中学生にもわかりやすく答えるのが難しかった(お客さまコミュニケーショングループ・流矢夕子さん)。同グループの齋藤未恭さんも「停電時に広報車でお知らせをする自分の仕事などについても話したが、その目的などを伝えられたらどうかと感じた。あらためてコミュニケーションの力について考えさせられた」と話す。

配電系の仕事について、業務内容への関心というよりも仕事の場の雰囲気、どうやって希望の仕事に就くことができたのか、または働く上での心構えなどへの関心が高かったという。

「あいつが大切というのは、仕事はチームワークで進むものであり、協働にはコミュニケーションが大切なんだということを強調した」(横須賀地域設備サービスグループ・進雄一さん)。自らの母校を訪ねた横須賀制御所配電保守グループの久保田雄大さんも「東電の仕事への理解をもらおうというより、一人の先輩、社会人として働くということについて、話をした方が関心を持って聞いてもらえた」と語る。

### 温かさ」に感謝

生徒たちからは、福島第一原子力発電所事故の問題を揶揄(やゆ)するような質問などはなかったという。伏見支社長は「多少覚悟を持って社員を送り出したが、自然に受け入れてもらった。横須賀火力が東電のシンボルでもあり、現在のような状況でもひとつの企業、一人の社会人としての立場で接してもらっている」と、今後も同事業に積極的に協力していきたいとしている。